

沖縄総合事務局 広報誌／第419号

Muribushi

むりぶし
群星

5月 6²⁰²⁵月号

May-June

隔月発行

特集

キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地に
琉球大学病院及び同大学医学部が移転



- 1 連載企画 沖縄歴史の散歩道 Vol.18
- 2 特集 キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地に琉球大学病院及び同大学医学部が移転
- 4 仕事の窓 1 公正取引課の広報・広聴活動！ ～法令違反を未然に防止するために～
- 5 仕事の窓 2 公正取引課による調査
～公正取引委員会、内閣府沖縄総合事務局による株式会社九州シジシーに対する警告について～
- 6 仕事の窓 3 沖縄の防災力強化を推進する取組について ～沖縄総合事務局の防災会議～
- 7 仕事の窓 4 身近な国有財産 ～旧法定外公共物（旧里道・旧水路）について～
- 8 仕事の窓 5 身近な原料を使った肥料の利用拡大に向けて
- 9 仕事の窓 6 「令和6年度農業農村整備事業優良工事等における表彰式」を開催しました！
- 10 仕事の窓 7 ご存知ですか？お米の表示、産地情報の伝達について
- 12 仕事の窓 8 「第1回みどり戦略学生チャレンジ沖縄ブロック大会」の表彰式等を開催しました！
- 13 仕事の窓 9 野生イノシシの関与によるアフリカ豚熱侵入に備えて
仕事の窓 10 インバウンド対応と輸出拡大に向けたセミナーを開催しました！
- 14 仕事の窓 11 中小企業活性化フォーラム
～コロナ禍後の二極化が進む今、求められる経営改善と事業再生～
- 15 仕事の窓 12 カーボンニュートラルに向けた取組に関する各種イベント
- 16 仕事の窓 13 「那覇港新港ふ頭地区ふ頭再編整備事業着工式」を開催しました！
- 17 仕事の窓 14 本島北部豪雨で使用した災害対策用機械の操作訓練を実施
- 18 仕事の窓 15 第15回 トラック輸送における取引環境・労働時間改善沖縄県地方協議会について
～トラックドライバーの働き方改革の実現にむけて～
仕事の窓 16 「安統管フォーラム in 沖縄」を開催しました！
- 19 仕事の窓 17 第1回沖縄交通リ・デザインシンポジウムを開催しました！！
- 20 仕事の窓 18 「白タク」は違法であり、危険です！ ～白タク等行為防止の取組を実施しました～
- お知らせ 人事異動
- 21 内閣府だより 「令和6年度 OKINAWA41 フォト・かりゆしコンテスト表彰式」が開催されました！



表紙写真

「お姉ちゃん待って」
(谷口由依さん撮影)



表紙の写真は、内閣府で運営している沖縄の魅力発信サイト「OKINAWA41」におけるフォトコンテスト・シーズン9の内閣府特命担当大臣賞（最優秀賞）に選ばれた「お姉ちゃん待って」です。（谷口由依さん撮影）

家族で沖縄県へ旅行に行った際の写真で、おそろいのワンピースを着たかわいらしい6歳、4歳、2歳の女の子3人が、アメリカンビレッジに行った際に、デジモンが上がり、3人で駆けだし始めたところ年上2人にどうしても遅れがちな2歳の妹を優しく待つてあげる2人のお姉ちゃんたちのやさしさ溢れるワンショットで、沖縄ならではの背景と相まって思わずほっこりしてしまいます。伊東沖縄担当大臣からも「この女の子3人の写真に魅了されました。」とのコメントがありました。

「OKINAWA41」には、本コンテスト審査委員特別賞等の受賞作品をはじめ、皆様からの投稿写真を中心に沖縄の魅力満載の写真がたくさん掲載されていますので、是非ご覧ください。

詳しくはこちら↓



沖縄歴史の散歩道

◆墓を巡る④◆

琉球史研究家の上里隆史氏が沖縄の歴史文化の魅力を本誌上で連載しています。



オランダ墓 (名護市 屋我地島)

諸外国とさまざまな交流のあった沖縄では、沖縄の人々以外の墓も存在しています。有名なのは泊の外人墓地。沖縄で亡くなった外国人専用の墓地で、300基あまりの墓が並んでいます。琉球王国時代から存在していて、最古は1718年の中国人のもので、宜野湾に漂着して死去した人物です。そのほかペリー艦隊の従者や明治時代のアメリカ人英語教師などの墓もあります。この墓地は現在も利用されていて、ベトナム戦争の戦死者も多数葬られています。なぜこの地に外人墓地が置かれたのでしょうか。実はこれには歴史的な理由があります。王国時代、泊は外国人の滞在地区で、近隣にあった聖現寺が外国漂着民の収容センターとなっていたため、そこで亡くなった者が葬られたのがきっかけとなっています。



ヤマトウンチュー墓 (うるま市 浜比嘉島)

江戸時代の日本からの船もしくは琉球で漂着・遭難しています。浜比嘉島(うるま市)のヤマトウンチュー(大和人)墓は1839年茨城の水戸藩の船がこの地に流れ着き、救助前に亡くなった5名が葬られ、墓石が今でも残されています。当時の船は木造船船であったため、悪天候などにより漂流が頻発していました。生存者は王府の手によって故郷へ帰されましたが、無念にも客死した者は沖縄で埋葬されることになったのです。

名称ですが、葬られているのはフランス人です。1846年に来航したフランス艦隊の船員2名が葬られています。琉球の時代、欧米人は「ウランダー」と呼ばれていたことからこの名が付いています。同じく国頭村の宜名真にもオランダ墓があり、1872年に沈没したイギリス商船のベナレス号船員の墓となっています。

上里 隆史 (うえざと・たかし)

琉球史研究家。内閣府地域活性化伝道師。法政大学沖縄文化研究所研究員。早稲田大学大学院修士課程修了。著書に『琉球という国があった』(福音館書店、2020年)、『海の王国・琉球』(ポニーインク、2018年)、『マンガ沖縄・琉球の歴史』(河出書房新社、2016年)、『尚氏と首里城』(吉川弘文館、2015年)など。NHKドラマ「テンペスト」時代考証や、NHK「ブラタモリ」案内人などメディアでも活躍。



近世、琉球に滞在していた薩摩藩の在番奉行のスタッフが葬られたのが那覇・若狭町の大和人墓地でした。広厳寺の境内にあったこの墓地には日本風の石塔墓が並んでおり、現存はしていませんが明治初年の絵図にはその姿が描かれています。沖縄とは思えない異国空間がかつて那覇に広がっていたわけです。



『冲縄志』中の大和人墓地 (那覇・若狭町) 琉球大学附属図書館所蔵

キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地に

琉球大学病院及び 同大学医学部が移転

沖縄健康医療拠点開所式

平成27年3月に返還されたキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地（宜野湾市）では、今後の基地跡地利用のモデルケースとして、琉球大学病院及び同大学医学部の移設を中心とする沖縄健康医療拠点の整備が進められ、令和7年1月に琉球大学病院が開院、同年4月には医学部が開学しました。

令和7年3月16日には沖縄健康医療拠点開所式が開催され、林芳正内閣官房長官、伊東良孝内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策担当）はじめ約220人が出席しました。

式典では、林官房長官、伊東内閣府特命担当大臣等が祝辞を述べました。また、あわせて祝賀会も開催され、多くの参加者が沖縄健康医療拠点の門出を祝いました。



林官房長官祝辞



伊東沖縄担当大臣祝辞



開所式 祝賀会



開所式 記念式典

沖縄健康医療拠点整備の沿革

キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区は、平成25年4月に公表された「沖縄における在日米軍施設・区域の統合計画」に基づき、返還されることとなった嘉手納飛行場以南の駐留軍用地のうち、他の返還予定地に先駆けて、平成27年3月に返還された約51ヘクタールに及ぶ大規模な地区です。同地区には、跡地利用の先行モデルとして、沖縄に潜在する発展の可能性を最大限に引き出すとともに、今後返還予定の跡地利用を牽引する役割が求められたことから、宜野湾市においては、キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）の跡地利用の方向性を、「住宅系のまちづくり」から「沖縄の発展をけん引する都市機能を持つまちづくり」へと転換し、地権者と共同で跡地利用に向けた検討の具体化が進められてきました。

平成26年4月には、沖縄県・宜野湾市が、同年6月に沖縄県・宜野湾市・琉球大学が「国際医療拠点」形成に向けた支援をそれぞれ国に要請し、国際医療拠点の形成を跡地利用の中心とする方向性が明確になりました。

これらの動きを受けて、宜野湾市において、平成27年7月に沖縄健康医療拠点（策定当時の名称は国際医療拠点）の形成を中心とした跡地利用計画が策定されました。

「沖縄健康医療拠点」は、国際性と離島の特性を踏まえ、琉球大学病院及び同大学医学部を移設し、沖縄の健康医療体制の中核となる医療拠点として、「高度医療・研究機能の拡充」、「地

公正取引課の広報・広聴活動！

～法令違反を未然に防止するために～

公正取引課では、所管する法令について、違反行為を排除するために厳正な法執行を行うとともに、違反行為の未然防止の観点から、沖縄県内全域で様々な普及・啓発活動を実施しています。今号では、①社会人向け、②学生向けに分けて、令和6年度の各種取組をご紹介します。



社会人向けの取組

～各種法令の説明会等～

事業者向け～所管法令の説明会～

独占禁止法、下請法、フリーランス法、景品表示法の理解を深めてもらうため、定期的に説明会を主催するほか、事業者団体・消費者団体等が主催する説明会、研修会等へ職員を派遣しています。

下請法基礎講習会

下請法の基礎として、下請取引の内容、親事業者の義務及び禁止行為を説明しました。

フリーランス法説明会

昨年11月に施行されたフリーランス法は、多種多様な業界で活躍するフリーランスとの業務委託取引について、「取引の適正化」「就業環境の整備」の2つの観点から発注事業者が守るべき義務と禁止行為を定めた法律です。施行直前・直後の時期に実施した説明会は大盛況でした。



「どっきん」

このほか、1・2月号で紹介したように、有識者の皆様との懇談の場でも、所管法令の説明等を行っています。



「オットリー長官」

発注機関向け

～入札談合の未然防止～

談合のない沖縄を目指し、次の取組を行っています。

発注機関に対する研修会

地方公共団体等の発注機関が入札談合行為の確認及び関連情報の収集をよりの確に行うために入札談合等関与行為防止法研修会を実施しており、初学者向けの入門編、受講経験者向けの事例編の2種類の研修を開催しました。

発注機関への講師派遣

県教育庁が主催する市町村担当者向け研修や市町村実施の階層別研修等に講師を派遣しました。

公共入札に関する連絡担当官会議

発注機関と公正取引委員会との協力体制の整備及び発注機関からの情報提供の円滑化を図るために開催しています。

参加した発注機関との間で公正な公共入札を実現するための取組について意見交換等しました。

学生向けの取組

～公正取引委員会の出前授業「独占禁止法教室」～

将来を担う学生に、独占禁止法を守ることはもちろん、市場経済の仕組み、消費者の商品選択や事業者間の競争の重要性、経済の基本ルールである独占禁止法の役割等について、早い段階で理解してもらいたいと考えています。

そこで、中学生、高校生、そして大学生向けに、職員を講師として学校の授業に派遣し、「独占禁止法教室」を開催しています。

中学生向け独占禁止法教室

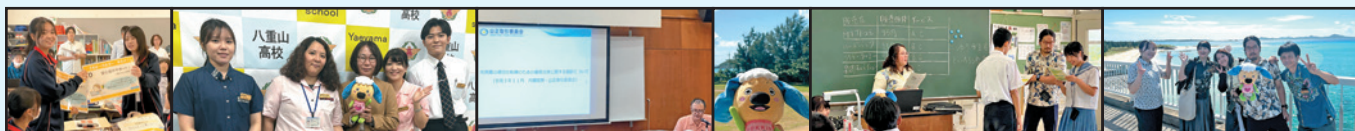
中学生・高校生向け授業では、講師が学習指導要領に準拠して作成した副教材や身近な事例などを用いて説明するほか、生徒参加型の競争シミュレーションゲーム、公正取引委員会の立入検査・事情聴取を生徒が体験・実演する寸劇を行います。

講師の説明をただ聴くだけでなく、生徒が自分で考えながら、競争の重要性、独占禁止法の役割等を学習し、公正取引委員会の仕事を理解できる授業内容です。

大学生向け独占禁止法教室

大学生向け授業では、競争政策に対する理解の増進を図るため、独占禁止法の概要、公正取引委員会の役割などをわかりやすく説明します。

公正取引課長が実例を交えて市場における競争の必要性を講義し、将来、社会人として経済活動に参加する学生に「企業の社会的責任」を学んでもらいました。

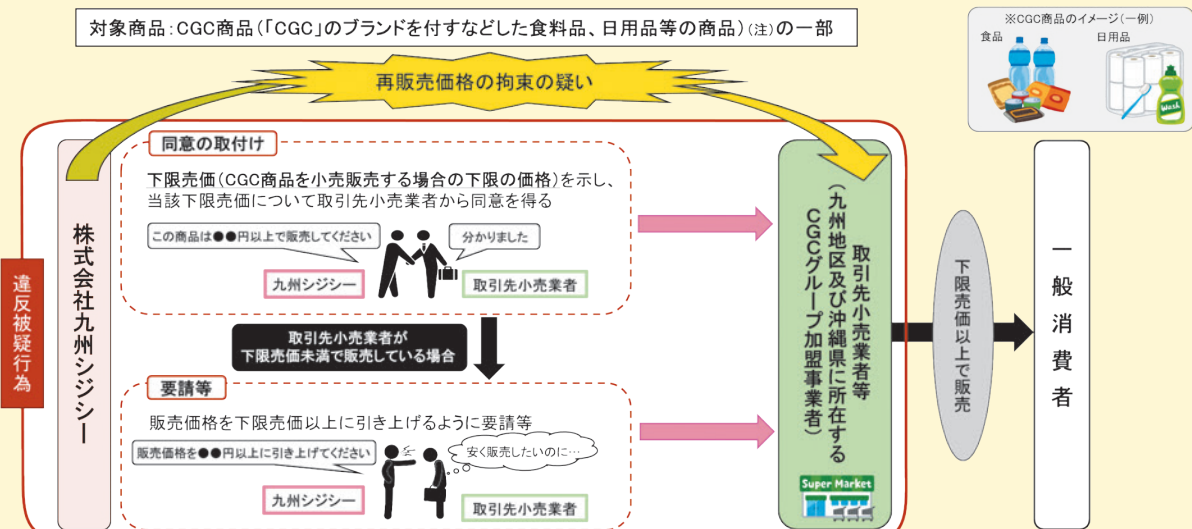


公正取引課による調査

～公正取引委員会、内閣府沖縄総合事務局による 株式会社九州シジシーに対する警告について～

公正取引委員会は、令和7年3月18日、株式会社九州シジシー（以下、「九州シジシー」といいます。）に対し、独占禁止法第19条（同法第2条第9項第4号（再販売価格の拘束））の規定に違反するおそれがある行為を行っていたことが認められたことから、警告を行いました。

警告の概要



（注） CGC商品は、九州シジシー等が製造事業者に製造委託するなど、各地の中堅・中小スーパーマーケットから構成されるグループ（CGCグループ）の加盟事業者に向け、同グループを運営する九州シジシー等から供給される。



（右から）
沖縄総合事務局総務部 公正取引課長
公正取引委員会事務局審査局
第五審査 審査専門官
沖縄総合事務局総務部 公正取引課
審査専門官（主査）
〔場所〕 沖縄総合事務局庁舎

記者会見の様子



CGC商品



詳しくは▼



お問合せ先

総務部 公正取引課
☎ 098-866-0049（直通）

大学・高・大学の先生方
授業に独占禁止法教室を取り入れませんか？

中高生向け

生徒参加型の競争シミュレーションゲームで自ら考え発表することで、競争の重要性を楽しく学習できます。
模擬立入検査・事情聴取を生徒同士で実演することで、授業内容の理解促進につながります。

中・高・大学の先生方

授業に独占禁止法教室を取り入れませんか？

発注機関の人事・研修担当者様

職員研修に入札談合等関与行為防止法研修を取り入れませんか？
ニーズに合わせた研修内容をご用意します！
受講対象者、所要時間、職員に特に理解してほしい事項等に応じて教材作成を行います。
訪問して行う対面方式のほか、オンライン方式でも開催可能です！

事業者の皆様

所屬する事業者団体等と独占禁止法等を学び、意見交換を行いませんか？
ニーズに合わせたテーマでお話ししましょう！
構成員のバックグラウンド、所要時間、特に話題にしたい事項等に応じて資料を作成します。
公正取引課職員から説明を行った上で、意見交換を行います。説明のみの実施も可能です。

私たちと学びませんか
～派遣費用・教材費等は無料です～



沖縄の防災力強化を推進する 取組について

～沖縄総合事務局の防災会議～

沖縄総合事務局では防災に関する様々な取組を実施しています。その中でも、「沖縄防災連絡会」と「沖縄の持続的な発展を支える防災対応推進会議」について紹介します。

沖縄防災連絡会

「沖縄防災連絡会」は沖縄地域における大規模災害への対応力の向上や、関係機関の連携の推進を目的としており、官民合わせて35機関で構成されている会議体です。

会議では、道路・港湾・空港・電力・石油・ガス・水道などのインフラ関係及び物流、観光客避難等に関する11の分野において検討・議論を行っています。

沖縄防災連絡会は平成24年度に設立され、令和7年2月14日の会議で13回目の開催となりました。今回、従来の地震・津波に加え暴風・豪雨等も検討の対象とできるよう運営要領を改訂し、暴風特別警報が発表される場合の臨時会の開催や沖縄気象台との合同記者会見による県民への警戒の呼びかけなどの取組を実施していくことを決めました。また、沖縄気象台からは運用開始以来初めて発表された南海トラフ臨時情報を受け、南海トラフ地震の概要及び臨時情報発表までの流れなどについて報告が行われました。



第13回沖縄防災連絡会

沖縄の持続的な発展を支える 防災対応推進会議

「沖縄の持続的な発展を支える防災対応推進会議」（以下、防災対応推進会議）は各分野の有識者である13名の委員で構成され、沖縄防災連絡会での検討内容や取組について様々な角度から助言等をいただいています。

令和7年3月7日に開催された防災対応推進会議では、沖縄防災連絡会等からの報告を受け、被災した離島への物資輸送や応急給水に関する助言など、活発な議論が行われました。



会議を進行する安里議長



担当者から報告を受け意見を述べる委員

今後の防災関係会議での 取組について

防災対応推進会議で指摘・助言があった事項については、今後取り組むべき課題として沖縄防災連絡会の中で検討を進めるとともに、沖縄地域の防災対応力の向上・強化のために関係機関と連携を図りながら、引き続き各種対策・検討を行っていきます。

お問合せ先

総務部 防災・危機管理課

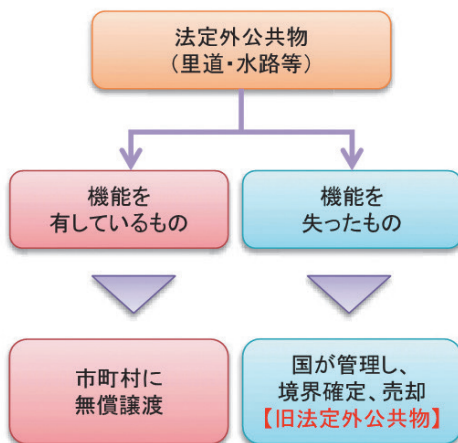
☎098-866-0115

身近な国有財産

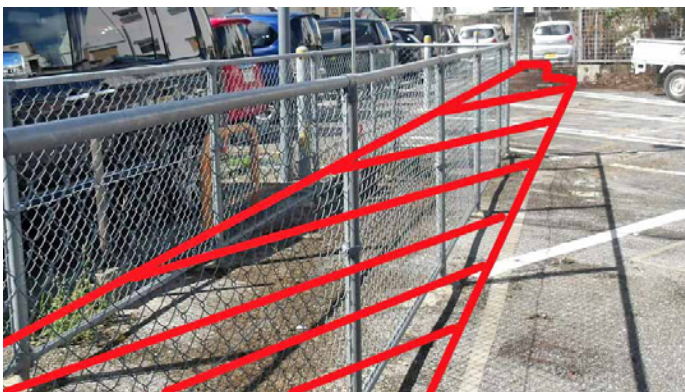
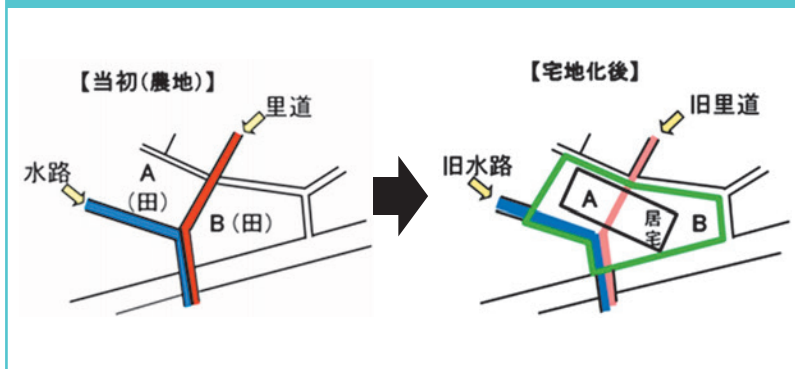
～旧法定外公共物（旧里道・旧水路）について～

旧法定外公共物とは、かつて里道や水路等であったものが、機能を失い、公共的な用途に使われていないものをいい、国（沖縄県では沖縄総合事務局財務部）が管理することになっています。旧里道や旧水路が、現に住宅敷地等として使用されている場合には使用者に対して売却を行っています。

※現在でも里道・水路としての機能を有しているものについては、国から譲与のうえ市町村が所有する土地となっています。



旧法定外公共物の例



(旧里道)



(旧水路)

旧法定外公共物の境界確定または購入手続きを検討されている方は、財務部ホームページ（右記の二次元コード）をご覧ください。下記までお気軽にお問い合わせ下さい。



沖縄本島及び離島地域
(宮古・八重山地域を除く)

財務部 統括国有財産管理官
TEL(098)866-0097

宮古地域

宮古財務出張所
TEL(0980)72-4774

八重山地域

八重山財務出張所
TEL(0980)82-4941

身近な原料を使った 肥料の利用拡大に向けて

沖縄総合事務局消費・安全課では肥料生産事業者を訪問し、肥料の生産・流通状況の聞き取り、意見交換を行っています。

農作物の栽培に利用される肥料には、様々なものがありますが、化学合成肥料の主な原料のほとんどは、海外に依存しているといわれています。このことから、国内で調達できる未利用資源を有効活用する動きが広がっており、特に身近な原料として、浄水化工程で発生する汚泥が注目されています。

今回、汚泥を主な原料とした肥料を生産している沖縄県農業協同組合北部堆肥センターの伊波工場長と当センターで製造した肥料を使用して花き（菊）を栽培している野原氏に話を伺いましたのでご紹介いたします。

北部堆肥センターについて

北部堆肥センター伊波工場長によると「北部堆肥センターは平成25、27年度にかけて名護市の沖縄振興特別推進市町村交付金を利用して整備され、平成28年度から沖縄県農業協同組合が指定管理者となり、運営しています。

主に汚泥と鶏糞、木質チップを原料とする汚泥肥料と鶏糞や豚糞を主な原料とする特殊肥料（堆肥）を生

産しています。

汚泥肥料は、浄化センターや食肉処理施設で生じる汚泥約2千トン／年を原料として受け入れ、その他の原料と混合し、発酵処理工程を経て、約2か月で製品化しています。

生産された汚泥肥料は主にウコンや菊、カボチャなどの生産農家に利用いただいています。安価な汚泥肥料はリピーターが多く、口コミで利用農家も広がっており、環境に優しい肥料をご利用いただきたいです」とのことでした。



【下水処理場からの汚泥原料】



【原料となる鶏糞】



【生産された汚泥肥料】

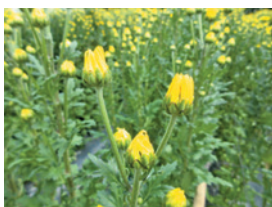
実際に汚泥肥料を利用している 菊生産農家の意見

名護市内で花き栽培を営んでいる野原氏に汚泥肥料を利用した感想に

ついて話を伺ったところ「花き生産を始めてから約45年になりますが、汚泥肥料は土壌改良を目的に約4年前から菊の定植前に基肥として利用しています。

汚泥肥料や堆肥は化学肥料に比べて長期にわたって土壌に効果があり、土作りに適していると感じています。

今期は、昨年11月の沖縄本島北部豪雨により、スプレー菊を定植したばかりのほ場約20アールが冠水しましたが、幸い生育への影響は少なく、今年3月の彼岸用として、出荷しました」とのことでした。



【スプレー菊】



【彼岸向け菊収穫作業中の野原氏】

当局では、「汚泥肥料」に対する農業者や消費者のイメージ改善、未利用資源の地域への循環のPRなど、引き続き理解の促進に向けて情報の発信を行ってまいります。

お問合せ先

農林水産部 消費・安全課

☎098-866-1672

「令和6年度農業農村整備事業 優良工事等における表彰式」を 開催しました！

沖縄総合事務局では、令和7年2月26日に、「令和6年度農業農村整備事業優良工事等における表彰式」を開催し、三浦局長が受賞者に対し表彰状を授与しました。

本表彰は、当局が発注した農業農村整備事業の工事及び調査・測量・設計業務のうち、その成果が優秀で他の模範となる取組を表彰するものです。それにより広く事業への理解を深めるとともに、設計・施工技術の向上、地域貢献活動への積極的な取組等について受注者の意欲の高揚を図り、事業の円滑な推進に資することを目的として行っています。

令和6年度は、平成19年以降実施されていなかった、農林水産大臣表彰、農村振興局長表彰が再開され、沖縄総合事務局長表彰も含め、全国的に過年度よりも多くの受賞者が選ばれることとなりました。

農業農村整備事業に携わる皆様におかれましては、是非受賞者の取組を参考にしていただき、当局管内の農業農村整備事業の工事・業務の一層のレベルアップを図られることを期待しております。

お問合せ先

農林水産部 農村振興課

☎098-866-1652

受賞区分	受賞部門	受賞者名
		対象工事等名
農村振興局長表彰	優良業務	NTC コンサルタンツ (株) 九州支社 令和5年度 多良間地区地下水長期取水試験他業務
	優良工事	(株) 海邦土木 令和4年度 石垣島農業水利事業 大浦揚水機場管理用道路他工事
沖縄総合事務局長表彰	優良業務	(有) 地建 令和5年度 宮古伊良部農業水利事業 保良地下ダム地質調査業務
	地域貢献活動	南西開発 (株) 令和4年度 石垣島農業水利事業 石垣9号幹線水路減圧施設他改修工事

◀ 令和6年度 農業農村整備事業
優良工事等表彰受賞者 一覧

※ 受賞対象工事等概要及び表彰理由の詳細については、沖縄総合事務局HPに掲載しています。



優良工事等表彰者及び受賞者の全体写真



農村振興局長表彰を受賞した
NTC コンサルタンツ (株)
代表取締役社長
大村氏からの謝辞



農村振興局長表彰
NTC コンサルタンツ (株)
写真：多良間地区での取水試験



沖縄総合事務局長表彰 (工事)
(株) 海邦土木
写真：業者提案による地耐力の確認現場



沖縄総合事務局長表彰 (業務)
(有) 地建
写真：孔内カメラによる孔内確認



沖縄総合事務局長表彰 (地域貢献)
南西開発 (株)
写真：貢献活動の植付用パイン苗採取作業

ご存知ですか？ お米の表示、産地情報の 伝達について



スーパーなどで販売されている袋詰のお米には、消費者の皆様が購入に当たって参考にできるように、一括表示欄にお米に関する情報が記載されています。また、レストラン、食堂などで提供される米飯については、お米の産地情報を知ることができます。これらお米に関する①表示、②産地情報の伝達について、ご説明します。

① スーパーなどで販売されているお米の表示

袋詰めされた玄米・精米は、食品表示法で定められた基準により①名称、②原料玄米、③内容量、④精米時期、⑤食品関連業者の氏名又は名称、住所及び電話番号を表示することとなっています。

このうち、産地、品種及び産年が同一であり、かつ、その根拠を示す資料を保存している原料玄米については、「単一原料米」と表示され、その産地、品種及び産年が併記されます。

産地については、国産品にあっては都道府県名、市町村名その他一般に知られている地名、輸入品にあっては原産国名又は一般に知られている地名が表示されています。

【表示例1】単一原料米の場合（産地、品種及び産年の根拠のある原料玄米）

名 称	精 米		
	産 地	品 種	産 年
原 料 玄 米	単一原料米 〇〇県 △△ヒカリ 〇〇年産		
内 容 量	〇〇kg		
精 米 時 期	〇〇年〇〇月〇旬（又は〇〇年〇〇月〇〇日）		
販 売 者	〇〇米穀株式会社 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇 〇—〇〇 電話番号 〇〇〇（〇〇〇）〇〇〇〇		

精米は「精米時期」、玄米は「調製時期」が表示されている。また輸入品でこれが不明なものは「輸入時期」が表示されている。
混合されたものは、これらのうち最も古い時期が表示されている。

食品関連事業者のうち、表示内容に責任を有する者が表示されている。

また、上記に該当しない原料玄米については、「複数原料米」等原料玄米の産地、品種及び産年が同一でない旨が表示され、その産地及び使用割合が併記されています。その場合、産地ごとの使用割合が高い順位に表示されます。

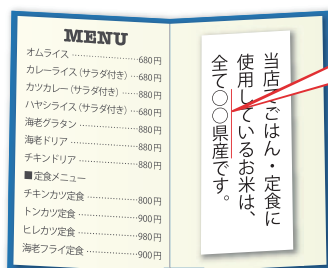
【表示例2】単一原料米でない場合

	産 地	品 種	産 年	使用割合
原 料 玄 米	複数原料米			
	国内産			8割
	中国産			2割

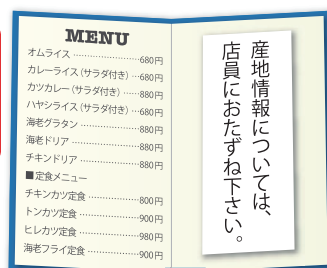
2 レストラン、食堂などで提供される米飯の産地情報

米トレーサビリティ制度（米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地情報の伝達に関する法律）により、お米、米加工品に問題が発生した場合などに、流通ルートを手早く特定するため、米穀等の取引等の記録を作成・保存すること、産地情報を取引先や一般消費者に伝達することが義務付けられています。このため、外食店（レストラン、食堂など）では、一般消費者に米飯類の産地情報を伝達する必要があります。伝達手段は、「店内に産地情報を掲示」、「メニューに産地情報を記載」、「店内に産地を知ることができる方法を掲示」があります。産地が国内の場合には「国内産」や「国産」で、産地が外国の場合はその国名で記載します。産地が国内の場合には都道府県名、市町村名や一般的に知られた地名でも構いません。また、産地が外国産の場合、国名を省略して州名等のみで記載を行うことはできません。

冊子メニューに表記する例



国産
〇〇国産
〇〇県産 等



個別メニューごとの表記例



メニューによって
米穀の産地が
異なる場合

店内掲示の例

店内に産地を知ることができる方法を掲示



(その他)
産地を知ることができる方法を
掲示した上で、お客様相談窓口、
Webサイトによる伝達も可。

国産
〇〇国産
〇〇県産 等



(その他)
店入口の立て看板、
店内配布チラシ、
ショップカード等でも可。

消費者の皆様も、スーパーなどで袋詰のお米を購入する際に表示をご確認ください。また、レストランなどで米飯をご注文の際は産地情報をご確認ください。

沖縄総合事務局消費・安全課では、お米の表示に関する情報のほか、食に関する情報を消費者の皆様へ引き続き情報提供してまいります。

お問合せ先

農林水産部 消費・安全課 ☎098-866-1672

「第1回みどり戦略学生チャレンジ 沖縄ブロック大会」の 表彰式等を開催しました！

農林水産省ではみどりの食料システム戦略の実現に向けて、将来を担う若い世代の環境に配慮した取組を促すため、2050年に我が国を担う中核世代である高校生・大学生等が実践した同戦略に基づく優れた活動を表彰する「第1回みどり戦略学生チャレンジ」を令和6年度に沖縄を含む全国9ブロックで開催しました。



第1回みどり戦略
学生チャレンジ全国大会



▲農林水産大臣賞を受賞した沖縄工業高等専門学校



▲大臣官房長賞を受賞した沖縄県立中部農林高等学校



▲最優秀賞を受賞した沖縄県立美里高等学校



最優秀賞を受賞した
琉球大学の河西氏による取組発表



学生間や学生と当局職員との間の
意見交換の様子

当局管内からは全11校25組（大学・専門学校の部…2校5組、高校の部…9校20組）の応募があり、そのうち審査で上位の3組が全国大会へ出場しました。令和7年2月8日に農林水産省で開催された全国大会では、沖縄工業高等専門学校（大学・専門学校の部）がドローンAIを活用しデータと発酵技術で有機農業の体系化を目指す取組で高く評価され農林水産大臣賞を受賞したほか、沖縄県立中部農林高等学校（高校の部）も県産ドラゴンフルーツの冷凍保存技術に関する取組が評価され大臣官房長賞を受賞しました。

令和7年3月9日には、沖縄ブロックの表彰式・交流会を開催しました。表彰式には、全国大会出場校3校を含む8校9組（大学等の部…2校3組、高校の部…6校6組）が参加し、琉球大学の河西寛太氏（大学・専門学校の部）と沖縄県立美里高等学校（高校の部）が最優秀賞を受賞しました。また、みどり戦略に沿った優れた取組を行ったその他の学校に対しても優秀賞からみどりチャレンジ賞までを授与しました。

第1回みどり戦略
学生チャレンジ沖縄ブロック大会

○みどり戦略学生チャレンジへの参加登録数（令和6年5月時点）

	大学等の部	高校の部	計
沖縄ブロック	6	24	30
全国	181	221	402



受賞記念撮影

○沖縄ブロック大会における受賞校等

部門	学校名（※全国大会出場）	取組数	受賞
大学・専門学校	沖縄工業高等専門学校 ★	1	農林水産大臣賞
	琉球大学	4	最優秀賞、優秀賞 みどりチャレンジ賞2
高校	美里高等学校 ★	1	最優秀賞
	北部農林高等学校	1	優秀賞
	中部農林高等学校 ★	1	大臣官房長賞
	浦添高等学校	1	特別賞
	昭和薬科大学付属高等学校	1	特別賞
	沖縄高等特別支援学校	1	特別賞
	名護高等学校	1	みどりチャレンジ賞
	宮古総合実業高等学校	7	特別賞 みどりチャレンジ賞6
	八重山農林高等学校	3	特別賞 みどりチャレンジ賞2

お問合せ先
農林水産部 農政課
098-866-1627



野生イノシシの関与による アフリカ豚熱侵入に備えて

近年、近隣国で感染が拡大しているアフリカ豚熱は、豚やイノシシに感染する致死率の高い伝染病です。このアフリカ豚熱が国内に侵入した場合、畜産物の安定供給に深刻な悪影響を与えるおそれがあることから、動物検疫所が検疫を強化しています。

土産や個人消費用の海外の食肉製品のほとんどは、検査証明書（※）の取得が難しく、国内に持ち込むことができないため、入国の際はご注意ください。

※検査証明書とは、家畜の病気を広げるおそれのないことを記載した、輸出国の政府機関が発行する証明書です。



埋置作業の様子



搬出作業の様子

お問合せ先

農林水産部 消費・安全課
☎098-866-1672



インバウンド対応と 輸出拡大に向けた セミナーを開催しました！

経済産業部では、委託事業により県内小売店等のPOSデータから身近なインバウンド観光客の購入傾向や、海外商社のヒアリングから海外ニーズ情報等の実態を把握するための分析を行い、そして沖縄県産品・沖縄県内企業側の課題を抽出し、その対策を検討することで、沖縄県産品のさらなる輸出拡大に繋げるための調査を行いました。その調査から得られた情報を沖縄県内企業の皆さまに広く共有し、インバウンド対策や輸出の拡大に取り組むためのオンラインセミナーを令和7年2月から3月にかけて、全3回開催しました。

第1回は、生産者・製造事業者向けとして、インバウンド観光客の消費トレンド・売れ筋のジャンル等を解説しました。

第2回は、卸・商社向けとして、20社以上の海外バイヤーへのヒアリングから得たニーズ等を解説しました。

第3回は、これまでの調査で得られた情報の総合編として、海外輸出に関わる現地バイヤーの声、海外の消費者の趣向の理解など、海外展開に向けて今後どのように取り組んで

いけばよいかを解説しました。

全3回で多様な業種から延べ1000名を超える方に参加いただきました。

経済産業部では、引き続き輸出拡大に向けた情報発信や支援を行ってまいります。



セミナーの様子（萌す様）



セミナーの様子（Vpon JAPAN 様）

お問合せ先

経済産業部 商務通商課
☎098-866-1731



中小企業活性化フォーラム

～コロナ禍後の二極化が進む今、
求められる経営改善と事業再生～

中小企業活性化協議会



県内支援機関・金融機関から約 80 名が参加

沖縄総合事務局では、県内企業の経営改善・事業再生支援を行っています。その一環として、金融調整機能を有し公正中立な実施機関として「沖縄県中小企業活性化協議会」（以下、活性化協）を設置し、支援を強化しています。現状の沖縄経済は、観光産業の状況を背景にV字回復を遂げる企業と、収益確保に苦しむ企業の二極化が指摘されています。コロナ禍での過剰債務に加え、エネルギー価格・原材料高騰、人手不足に苦しむ中小企業においては、経営改善・事業再生の早期着手と、支援機関連携が一層重要になっています。支援



名城社長の講演の様子

後半のトークセッションでは、活性化協の内閣春菜統括責任者補佐をファシリテーターに、沖縄県信用保

取締役社長の名城道永様より、活性化協のサポートを受けるに至った背景や立て直しの経緯など、経営改善に向けた取組について講演いただきました。

機関の連携を強化し、経営改善・事業再生が必要な企業の早期発見を促すべく、令和7年2月4日、中小企業振興会館において、経営改善に取り組んだ企業の実例を通じて、企業の実情に応じた経営改善・事業再生支援の手法について学ぶ中小企業活性化フォーラムを開催しました。

前半は、中小企業庁事業環境部金融課の平田大真係長による中小企業庁の取組や、（独）中小企業基盤整備機構中小企業活性化全国本部の松田正義統括事業再生プロジェクトマネージャーから中小企業の収益力改善・事業再生・再チャレンジを推進する活性化協の取組や、再生支援に取り組む上で重要なマインドについて説明しました。その後、実際に活性化協を活用して経営改善に取り組んだ（有）ニユーラッキーランドリー代表



トークセッションの様子

証協会経営支援部の山川蔵経営支援課長、沖縄振興開発金融公庫事業環境部の野原ゆかり上席調査役、沖縄県よろず支援拠点の金城力サブチーフコーディネーター、活性化協の新崎康統括責任者、全国本部の松田プロジェクトマネージャーの5名のパネリストより、コロナ後のゼロゼロ融資及びコロナ特別貸付の状況や、支援機関・金融機関が連携して事業再生支援に取り組むことの重要性など様々な意見が出され、活発なセッションとなりました。

沖縄総合事務局では、今後も関係機関と連携し、引き続き、経営改善・事業再生支援に取り組んで参ります。



△
当局的 Youtube
チャンネルで録画配信を
ご覧いただけます。



△
経営改善・事業再生に関する
ご相談はこちらから
（沖縄県中小企業活性化協議会 HP）

お問合せ先

経済産業部 中小企業課
098-866-1755



カーボンニュートラルに向けた取組に関する各種イベント

地域脱炭素に向けた地方公共団体と企業のマッチングイベント

2050年までのカーボンニュートラル実現に向け、地域課題を解決し、地域の魅力と質を向上させる地域脱炭素を推進することを目的に、環境省九州地方環境事務所と共催で、令和6年11月18日、沖縄産業支援センターにて「地域脱炭素に向けた地方公共団体と企業とのマッチングイベント」を開催しました。本イベントでは、沖縄・奄美地方の地方公共団体のブースを企業が訪れ、地域脱炭素に関する意見交換を行い、出展企業のブースには、地方公共団体や企業が相談に訪れました。



地域脱炭素に向けた
マッチングイベントの様子

令和6年度沖縄地域エネルギー・温暖化対策推進シンポジウム

エネルギー・温暖化対策に関する情報交換等を目的に、環境省九州地方環境事務所と共催で、令和7年1月24日、沖縄県立博物館・美術館にて「令和6年度沖縄地域エネルギー・温暖化対策推進シンポジウム」を開催しました。

「エネルギー・温暖化対策推進シンポジウム」を開催しました。

本シンポジウムでは、中小企業基盤整備機構の吉村正裕氏、沖縄奄美自然環境事務所の川崎浩明氏、沖縄県商工労働部産業政策課の瑞慶覧桂太氏、与那原町企画政策課の安慶田知志氏、株式会社りゅうせきの西野通憲氏にご登壇いただき、カーボンニュートラル実現に向けた考え方や取組についてご講演いただきました。また、パネルディスカッションでは「実現できるか!? 沖縄のカーボンニュートラル」をテーマに活発な議論を展開し、参加者からも多くの質問が寄せられました。今後、沖縄地域のエネルギー・温暖化対策に関する取組の推進に寄与していきます。



講演の様子

令和6年度沖縄地域エネルギー・温暖化対策推進シンポジウム

県内の省エネ取組推進のため、国の省エネ施策や県内事業者の省エネ取組事例などを紹介する「令和6年度エネルギー使用合理化シンポジウム」を令和7年2月18日（Okinawa Innovation Lab）で開催しました。本シンポジウムでは、琉球歴史文化研究所の賀数然仁氏に「琉球の歴史から学ぶエネルギーへの取組」について、株式会社青い海の神蔵岳紘氏、山の内観光株式会社の山内晴貴氏に「省エネ診断や省エネ補助金を活用した取組」について、株式会社琉球銀行の宮里竜氏、株式会社みらいおきなわの儀間康真氏に「省エネの取組に関する支援事例」についてご講演いただきました。



賀数氏、神蔵氏、山内氏によるパネルディスカッションの様子

また、「沖縄におけるエネルギーコストとの向き合い方」をテーマにパネルディスカッションを行い、賀数氏、神蔵氏、山内氏による活発な議論が展開されました。当課では今後も、カーボンニュートラルに向けて、沖縄地域での脱炭素化や省エネに関する取組を進めてまいります。

問合せ先

経済産業部 エネルギー・燃料課
098-866-1759



「那覇港新港ふ頭地区 ふ頭再編整備事業着工式」を 開催しました！

令和7年3月2日、沖縄県那覇市のパシフィックホテル沖縄において、那覇港新港ふ頭地区ふ頭再編整備事業の着工に伴い、「那覇港新港ふ頭地区ふ頭再編整備事業着工式」を開催しました。

本事業箇所である那覇港は沖縄の物流拠点であり、取合せ品、完成自動車、製造食品、飲料等といった住民、観光客等の人々により利用・消費される貨物の取扱いが大半を占めています。これらの貨物は、沖縄への入域観光客数の増加や全国を上回る経済成長等と連動し大幅な増加傾向となっており、今後の「強い沖縄経済」の実現により一層の増加が見込まれています。この取扱貨物量の増加に伴い、輸送手段となる船舶の大型化も進んでいます。

本事業は、大型化した船舶が係留するための岸壁増伸や、増加した貨物を取り扱う新たな荷捌き地を整備するものです。また、整備される岸壁は「耐震強化岸壁」として整備し、被災時の安定的な物資供給を強化することで、沖縄の持続的な経済成長を支援します。

着工式では高橋国土交通副大臣、今井内閣府大臣政務官、玉城那覇港管理組合管理者（沖縄県知事）からの挨拶に続いて、赤嶺衆議院議員、國場衆議院議員、山川衆議院議員からの来賓祝辞のほか、波上宮獅子舞保存会による演舞や、くす玉開披を

行い、祝意とともに物流拠点としての機能強化とサプライチェーンの強靱化に係る期待が示されました。

高橋副大臣は、「整備に着手する岸壁は、那覇港において初となるRORO船（※）の貨物を取り扱う耐震強化岸壁であります。大規模地震の発生時においても機能する、強靱なサプライチェーンが実現するほか、沖縄における離島とのネットワークを強固にし、集落の孤立を防ぐことに繋がります。本事業を着実に推進し、那覇港の発展に全力で取り組んでまいります」と述べました。また、今井内閣府大臣政務官は、「海に囲まれた沖縄では海上輸送は非常に重要です。新型コロナウイルス感染症拡大による影響から沖縄の観光経済活動が順調に回復する中、沖縄の更なる振興のためには港湾の発展は欠かせません。本事業の着実な実施に向けた支援に全力を尽くしてまいります」と発言し、日頃より那覇港の整備・振興にご尽力いただいている方々への感謝と整備事業の着実な推進に向けて挨拶を述べました。

沖縄総合事務局も安全第一で早期の完成を目指し、引き続き努めてまいりますので、関係各位のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

※RORO船：トラックなどが直接乗り込んで貨物を運搬できる船舶のこと。



今井絵里子内閣府大臣
政務官の挨拶

高橋克法国土交通副大臣
の挨拶



くす玉開披



那覇港新港ふ頭地区ふ頭再編整備事業

お問合せ先
開発建設部 港湾計画課
☎098-866-1906



本島北部豪雨で使用した 災害対策用機械の操作訓練を実施



道の駅おおぎみでの応急給水支援

国頭村比地区における土砂撤去支援
協力会社：沖縄道路メンテナンス（株）、オパス（株）

令和6年 沖縄本島北部豪雨について

沖縄本島北部では令和6年11月8日から10日まで断続的に活発な雨雲が発生し、9日0時12分から10日8時47分までに、国頭村・大宜味村・東村・名護市で合計18回の記録的短時間大雨情報が発表されるなど、過去に経験したことが無いレベルの局地的な集中豪雨となりました。

この豪雨により、国頭村比地区集落への浸水・土砂流入や大宜味村津波浄水場の被災による断水など、甚大な被害が発生しました。開発建設部では、11月9日から15日の期間、沖縄本島内では初めてとなる緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）

の管内派遣を行い、特に国頭村・大宜味村においては、災害対策用機械（排水管清掃車・側溝清掃車・給水装置付き散水車）の緊急貸付等による災害応急復旧支援を実施しました。

災害対策用機械操作訓練の実施について

災害対策用機械による災害時の応急復旧支援については、自治体からの要請による無償貸付が基本となりますが、自治体側で用意する地元業者等の作業員が作業する際、不慣れた機械操作による作業時の破損や交通事故の補償対応などが懸念されています。

これらの課題を踏まえ、令和7年2月26日、本島北部豪雨にて支援活動を行った災害対策用機械の操作、及び機器仕様の情報共有等を行い、災害発生時における応急復旧支援活動の能力向上を図ることを目的とした訓練を実施し、併せて機械の貸付の流れや保険に関する情報共有なども行いました。この訓練には開発建設部職員や維持業者以外に本島内市町村の防災担当者や水道事業者など40名以上も参加して、担当者の説明を受けて実際の機械操作実演なども行いました。

災害対策用機械操作訓練 (宜野座村：漢那ダム湖畔公園)



側溝清掃車・排水管清掃車を用いた操作訓練



給水装置付き散水車による応急給水訓練



参加者による機械操作実演

今後も万が一の災害に備え、平常時から訓練や情報共有を通して災害復旧活動の能力向上を図っていきます。

お問合せ先
開発建設部 防災課
☎098-866-1903



第15回 トラック輸送における 取引環境・労働時間改善 沖縄県地方協議会について ～トラックドライバーの 働き方改革の実現にむけて～

令和7年2月17日、全国的にトラック業界の課題となっており、事業者の取引環境及び運転手の長時間労働の改善を図るため、沖縄労働局及び公益社団法人沖縄県トラック協会と沖縄総合事務局の共催による県内の荷主事業者、経済団体、運送事業者、労働者団体等で構成する「第15回トラック輸送における取引環境・労働時間改善沖縄県地方協議会」を開催しました。



協議会の様子

会議では、当局から令和5年7月に設置されたトラックGメンの活動内容や、物流効率化や取引環境適正化を図るため荷主や物流事業者に対する規制措置の導入等を定める「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律及び貨物自動車運送事業法の一部を改正する法律」が令和7年4月に施行されることを説明しました。続いて、沖縄労働局からは令和6年4月から適用されている自動車運送者の労働時間に関する改善基準告示の改正内容について説明があり、沖縄県内でのトラック輸送の問題について議論を行いました。



小野座長による冒頭挨拶

トラック業界を取り巻く厳しい環境は待ったなしの状況です。環境改善に向けては荷主の理解が是非とも必要です。引き続き、関係各位のご理解とご協力をお願いいたします。

お問合せ先

運輸部 陸上交通課

☎098-866-1836



「安統管フォーラムin沖縄」を 開催しました！

国土交通省では、運輸安全マネジメント制度の普及・啓発、浸透・定着に向けた取組として、交通モードの垣根を越えて、安全統括管理者（※）が交流を深めるための「横の連携」の場とするため、平成29年から「安統管フォーラム（安全統括管理者会議）」を開催しています。

運輸各業種の取組を聞けて非常によかった」、「各モードの現場での苦労話の確認できてよかった」、「他業種の取組と参考となる事項が多かった」などの関心の高さが伺えました。運輸部では今後も交通事業者が業種の垣根を越えて交流を深める場を作れるよう取り組んでまいります。

※安全統括管理者…運輸事業者における輸送の安全確保に関する統括責任者

このたび、沖縄では初となる「安統管フォーラム」を令和7年3月24日に開催し、参加者の皆様に交通モード横断のグループディスカッション等を通じ、参加者の皆様に安全に関する知見や交流を深めていただきました。

フォーラムにはバス、海運、鉄道、航空の交通事業者にご参加いただき、3グループに分かれて「いま、運輸事業者に必要な人材、能力とは何か」「リスク感受性向上等について考える」、「効果的な内部監査を実施するための課題と対応」、「事故・ヒヤリ・ハット情報等の収集・活用」をテーマにディスカッションを行い、各社で抱えている課題や問題点、悩み等について、活発な意見交換が行われました。



グループディスカッションの様子

お問合せ先

運輸部 総務運航課

☎098-866-1836



第1回沖縄交通リ・デザイン シンポジウムを開催しました!!

沖縄交通リ・デザインとは？

沖縄では、通勤、通学、買い物など自家用車中心のライフスタイルがこれまでの成長を支えてきた一方で、慢性的な交通渋滞による時間損失・生産性低下、著しく低い公共交通の分担率に伴う環境の悪化、二次交通の利便性の低さによる観光客の沖縄離れなど、このままでは、沖縄の生活・社会、ビジネス、観光の質の低下につながることも懸念されています。こうしたライフスタイルからの脱却を図るため、経済界、交通・観光関係者、行政等が一体となって「沖縄のありたい姿」の実現に向け、「ライフスタイルの転換」と「効率的な移動環境の整備」を車の両輪として、沖縄の交通や都市のリ・デザインに取り組み続けています。

首里地区におけるライフスタイル転換に向けた取組 (内閣府沖縄振興局・沖縄総合事務局)

首里地区は、道幅が狭いにも関わらず、中南部の市外から那覇の中心地へ向かう通過地点であることや、坂が多いため住民の自家用車による移動が多くなっています。その為、モノレールの駅や市内外のバス路線が通っているにも関わらず、公共交

通を利用できていないのが現状で、交通渋滞が長年の課題となっています。

この長年の課題を解決するため、昨年から首里地区を対象に内閣府沖縄振興局と共に進めている取組として、首里高校1年生と銀行3行の職員を対象に、車以外にも様々な通勤・通学手段があることを認識してもらう機会として、今までの通勤・通学スタイルを一定期間見直し、公共交通機関を利用し通勤・通学をする実証実験を行いました。

シンポジウムの開催！

シンポジウムでは、琉球大学の神谷准教授の基調講演や県内の取組事例紹介を行いました。沖縄県企画部交通政策課、沖縄銀行、特定非営利法人OTTOP、KPMGコンサルティング（名護スマートシティ推進協議会構成企業）による発表のほか、実証実験に参加した首里高校1年生が登壇し、特別発表を行いました。また、「ライフスタイルの変革に向けて」というテーマで行われたパネルディスカッションでは様々な視点から沖縄の交通課題解決に向けた意見交換が行われました。

シンポジウムに足を運んでいた人の中には、県内自治体の交通担当者やコンサル企業、また一般の

方々の参加も多く、今後の沖縄の交通課題解決に向けて前進できた場になりました。引き続き運輸部は沖縄の交通や都市のリ・デザインに全力で取り組んでまいります。第2回のシンポジウムにも是非ご参加お願いいたします。



シンポジウムの様子



特別発表で登壇した首里高校1年生

お問合せ先

運輸部 企画室

098-866-1812

09818661836

白タク・白バス違法広報用チラシ（日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語）

内閣府だより

令和6年度OKINAWA41フォト・ かりゆしコンテスト表彰式

が開催されました！

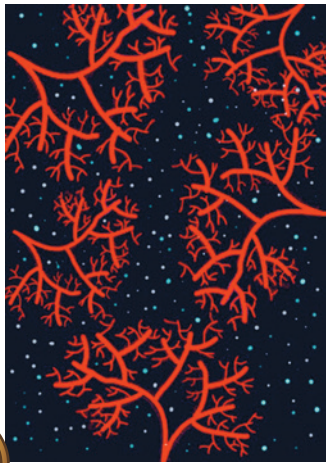


フォトコンテスト／シーズン9
内閣府特命担当大臣賞(最優秀賞)
『お姉ちゃん待って』(谷口 由依さん撮影)



令和6年度OKINAWA41フォト・
かりゆしコンテスト表彰式 記念撮影

『赤サンゴ』の
デザインを基に
作成した
かりゆしウェア



かりゆしウェアテキストスタイル
デザインコンテスト2024最優秀賞
『赤サンゴ』(吉田 海さん作)



他の受賞作品は
「OKINAWA41」のサイト
でご確認いただけます。
ぜひご覧ください！

OKINAWA41

検索



3月15日、知られざる沖縄の魅力を発信するウェブサイト「OKINAWA41」で開催されたフォトコンテスト及びかりゆしウェアテキストスタイルデザインコンテストの表彰式を沖縄総合事務局で開催し、審査委員の崎山一葉さんによる表彰状の授与が行われました。

また、残念ながら表彰式に欠席された審査員の護得久栄昇さん、ガレッジセールのお二人、糸数美樹さん、そして審査委員長の北島清隆さんからビデオレターを寄せていただきました。



小禄道路工事へのご協力をお願いします。



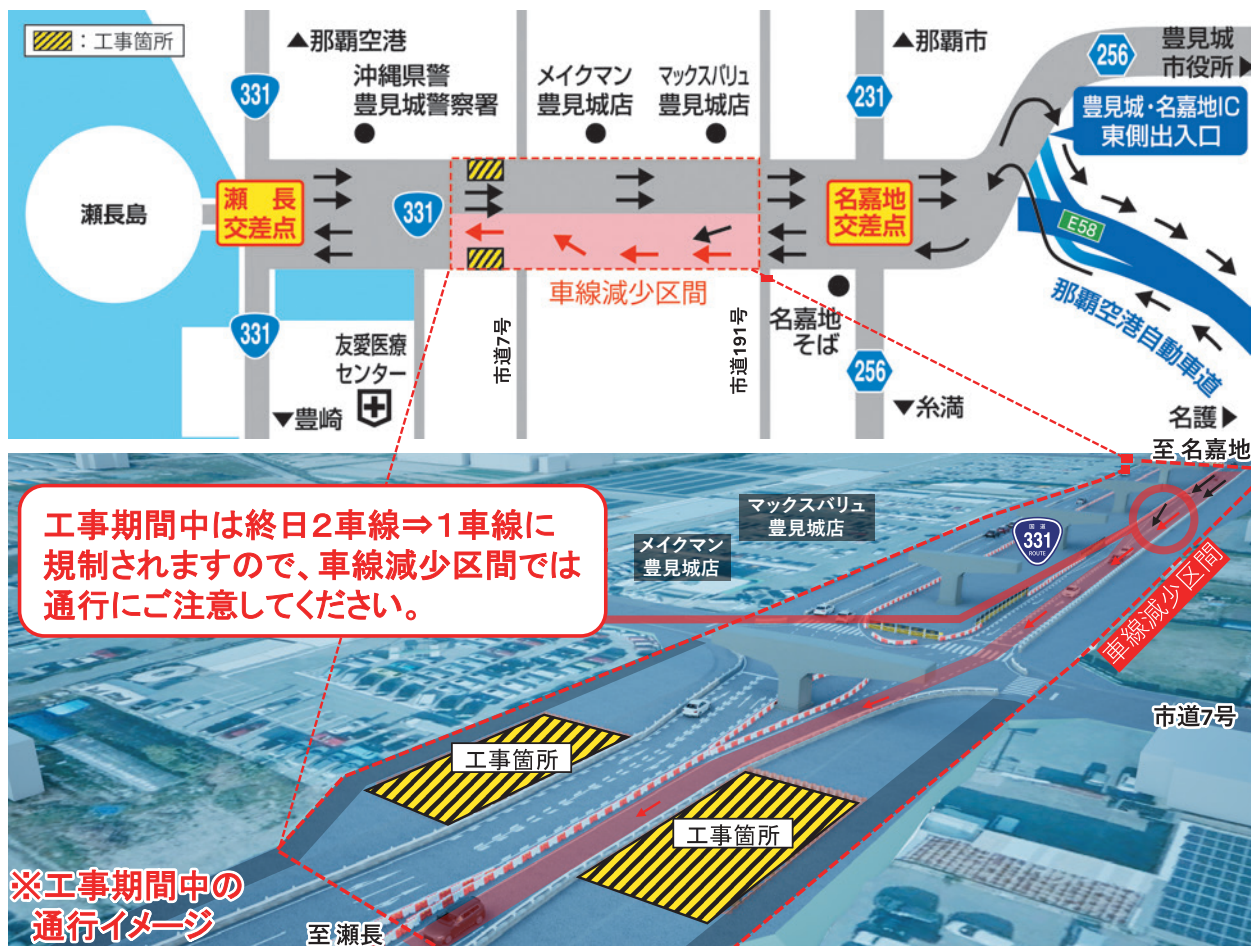
走行にご注意ください！



小禄道路工事に伴い 終日車線規制

令和7年4月上旬～令和8年夏頃（予定）において、
名嘉地→瀬長の終日車線規制を実施します。

混雑が予想されますので、時間に余裕をもって
お出かけくださいますようお願いいたします。



詳細な規制情報はこちらからご確認ください

<https://www.dc.ogb.go.jp/nankoku/2025oroku/index.html>

【小禄道路渋滞対策協議会】

沖縄総合事務局南部国道事務所(事業主体)、沖縄県、沖縄県警察本部、那覇市、豊見城市、糸満市、西日本高速道路株式会社
(一社)沖縄県ハイヤー・タクシー協会、(一社)沖縄県バス協会、(公社)沖縄県トラック協会、(一財)沖縄観光コンベンションビューロー、(一社)沖縄県レンタカー協会

